

# 角田 参考人資料

# 一般医家(かかりつけ医)における 難病患者さんの診療

角田外科消化器科医院・三鷹市医師会(東京都)

角田 徹(カクタオオル)

東京都医師会理事(難病担当)

# 初診(診断未確定)患者さんの場合

- 一般医家は『振り分け』外来の役割
- 通常の『病診連携』にて専門病院(地域の基幹病院等)に紹介 北多摩南部2次医療圏(人口約100万人)、杏林大学病院、武蔵野赤十字病院、多摩総合医療センター、慈恵医大第3病院、(都立神経病院)等
- 地域・出身(経歴的)情報から紹介先の専門医療機関を決定 (東京医科大学)



# 紹介患者さん(新規)の場合

- 専門(基幹)病院から地域へ紹介する場合、地区医師会の情報や独自(連携医療機関)の情報をもとに紹介する 三鷹市医師会には杏林大学病院が会員として加盟、三鷹市医師会が主催する『地域ケア会議、在宅ケア打ち合わせ』にて新規の在宅患者さんと受け入れ医療機関との調整を行っている

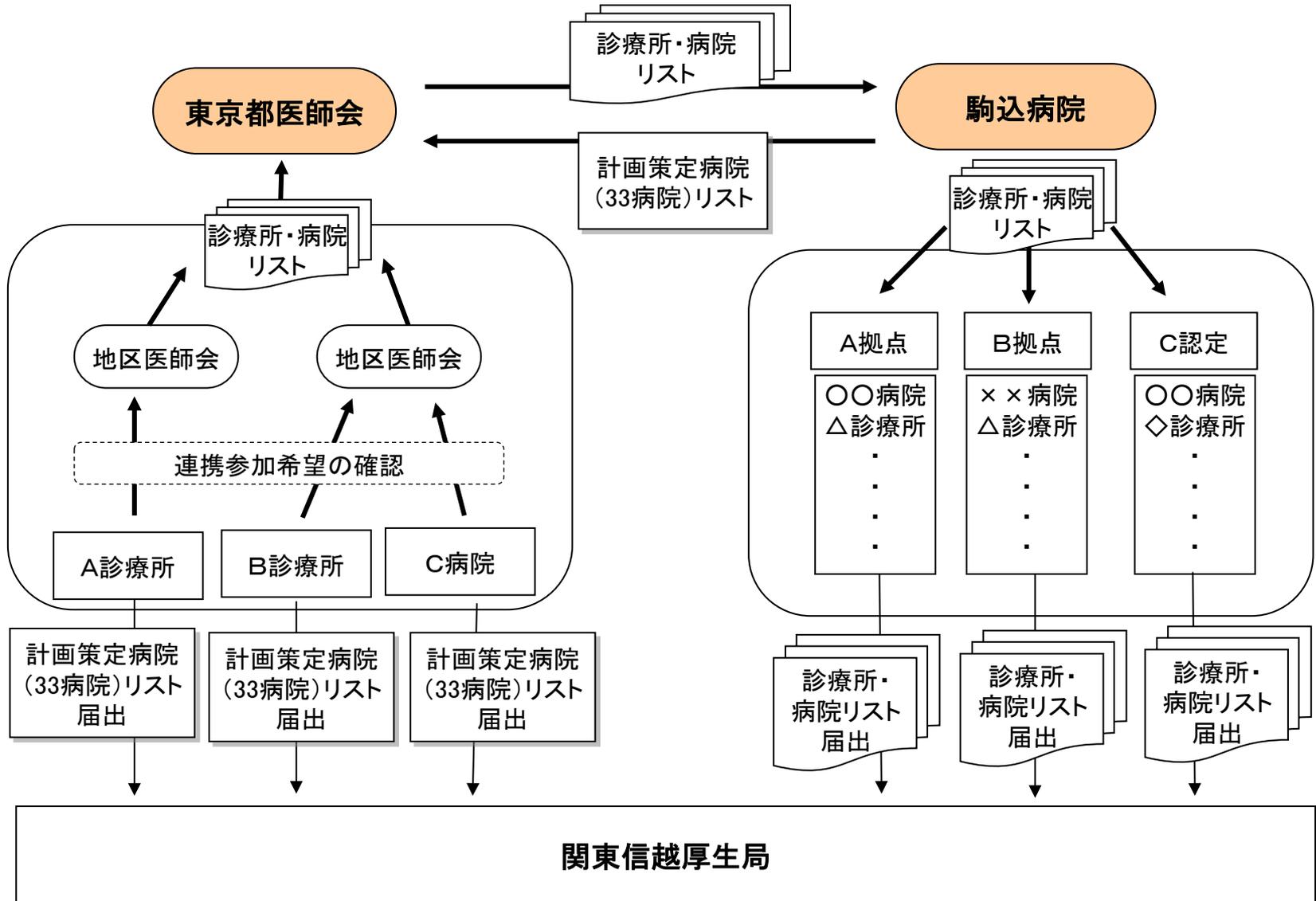
# 地域ケア会議、在宅ケア打ち合わせ

- 地域ケア会議：昭和55年から毎月1回（第2月曜日14:00～）医師会担当理事、在宅診療医、行政、訪問看護ステーション、基幹病院、都立神経研 等
- 在宅ケア打ち合わせ：毎月第4月曜19:00～  
医師会担当理事、在宅医、都立神経研
- 在宅受け入れ調査：2ヶ月に1回全会員医療機関を対象に『在宅受け入れ可能な人数、その条件』等を調査し医師会が把握

# 逆紹介(専門医療機関に紹介した)の 患者さんの場合

- 『かかりつけ医』としての役割: 日常診療、医療・福祉に関する相談 等
- 『専門医と連携する地域主治医』としての役割: 専門医からの指示に基づく診療の継続、病状変化時の専門病院への紹介・情報提供、病状の説明 等 → 具体的な診療継続内容の指示、病状の経過・進行予想、紹介の判断基準 等が有益(がん診療の連携パスが参考)

【参考】施設基準届出に係る作業イメージ



# 『がん治療連携指導料』連携医療機関数

- 東京都医師会に所属する59医師会中、12の大学医師会と都立病院医師会を除いた

46 地区医師会の

2062 医療機関

(会員数20510名、医療機関数10290件)

が登録(平成22年10月1日現在)

33の計画策定病院とがん治療連携指導料(300点)の算定が実現

# 神経難病患者さんの在宅における課題

- 総論的: 高齢化に伴う合併症の管理、長期入院、積極的治療法の不在 等
- 医療機関: 一人の患者さんに投下される医療行為は複数に及ぶ 人工呼吸器、気管切開、胃瘻、膀胱瘻等 チームの指導や管理 医療報酬の『まるめ』の問題 等
- 看護系: 対応できる人員の不足、ケアマネージャーの知識や経験、複数の訪問看護ステーションで対応(診療報酬上の問題)、教育と人材育成(人員が絶えず入れ替わる) 等
- 看取りの問題